

---

## ニューデリー一人ぼっち

先発の一ヶ月

大 嶽 藤 一

---

ニューデリーは暑い。タラップを降りると飛行場のコンクリートはコオロギでいっぱいであった。異様な熱気が体を包んだ、何んとも言い難い不感が襲ってきた。デリーは暑いが湿気が少ないから比較的過し易いと聞いていたが、これでは先が思いやられる。

しかし気分が重いのは、この気候のせいばかりではなかった。ビザがないのである。東京のインド大使館に登山隊として申請した書類は私のビザにも影響し、登山許可がまだ出ないとの理由でビザは発行してくれなかった。ニューデリーでは登山準備をしなければならない。その為には本隊より早く行って準備する者が必要であるからとビザを出してくれる様にと頼んだが結果は同じであった。それでは観光ビザに切換えてくれる様にと頼んでも見た。ヒマチャール州の観光局長であるマハジャン氏にも電報を打ち善処を願った。考えられるすべての手は打った、だが、それでもビザは発行されなかった。

最後の手段はトランシット・ビザであった。このトランシット・ビザで21日間はインドにいられる筈である。しかしその後のビザ延長の可能性は見当もつかなかった。又我々のパスポートには既にビザが申請中の印が押してある。もしデリーの入国審査官が、それを見て入国を拒否するかも知れない。その時はネパールへ行くしか方法がないと、一応デリー～カトマンズの飛行キップをも持ち、ここデリーの空港であるパラム空港に下り立ったのである。もう半分やけくそで取った行動であった。

バスはゆっくりと到着ビルに着き入国審査が始まった。しかし審査官はパスポートのビザ申請中の印も見たが、何も言わずあっさりと、私のトランシット・ビザを発行してくれた。これで21日間インドにいられる。この間に登山許可を取り、ビザ延長をすれば良い。次は税関である。ここでも不安があったトランシーパーを持っているのである。インドではトランシーパーの持込みはうるさい。無許可では持込ませてくれない。現に税関に保管された人もいる。もうこれは税関に保管されるのを覚悟の上であった。その間にトランシーパーの持ち込み許可と使用許可を取れば良い。ベルトに乗って私の荷物が来た。山用のザックとダンボール箱なので、すぐに判別がつく。他

の人は皆旅行用のカバンであったが、これは皆同じ様なデザインであり、自分の荷物を判別するのに苦労していた。そんな人々を横目に早い順番で検告を受けた。こっちは英語が得意でない。人国カードを書くにも四苦八苦したあげく、一人係官を専属にしてやっと書き終えたのである。そんな姿を知ってか、うるさいことは言わなかった。お前の持ち物はどれとどれだとか、ダンボール箱には食べ物が入っているのかと言っていた。みんなイエスと答えたら（ダンボール箱には食べ物が入っているどころか、トランシーバーが入っていた）何も開けずにあっさりチョークで荷の上にチェックをして通してくれた。インドの税関はうるさいと聞いていたので、余りのラッキーに少々戸惑いを感じたが、これでトランシーバーを持込めた。後は使用許可だけである。

意外のスムーズさに少々気を良くして、タクシーを拾い、ラジットホテルへ何ったら最後が悪かった。後で分ったことだが、このタクシー白タクで普通の料金の5倍近い金を取られていた。インドのタクシーは、上が黄色、下が黒のツートンカラーと決っているので、それ以外の車はタクシーではないそうだ。こんなことでも知っているのと知らないのでは色々違って来る。

とも角21日の間に登山許可を発行してもらおうことが大前提である。我々は先発隊員に必要な日数は1ヶ月と踏んでいた。ニューデリーで再申請をし、許可の発行まで3週間、後1週間でビザ発行をしてもらい本隊到着と予定していた。少々日数が足りないが、やってみるしかない。

翌朝、早速チャナキアプリにある日本大使館へ挨拶に行く。登山隊である旨を云えたところ、カルチャー・セクションの鈴木さんという方の所へ通された。とも角我々の計画書を渡し、計画を説明し、IMF (Indian Mountaineering Foundation) の Mr. Chacrabarty にアポイントメントを取ってくださる様、御願いしたら、鈴木さんは心良く引き受けてくれた。早速電話をしていただくと、話中だったり、会議中だったり、なかなか捕えることが出来ない。これは蛇足になるがインドの電話は余り信用出来ない。故障が非常に多い、又インド人もそんな時は電話が故障しているから明日来いと、受付けで追い返えさせられてしまう。電話の故障位いで翌日出なおすとは、まったくやりきれない。又公衆電話があるにはあるが、これは使えないに等しい。我々がインドに行った頃10パイサの硬貨が新しくなった。公衆電話は30パイサである。つまりこの新しい硬貨が3枚いる、1枚位はたまにはあるが、3枚も持っていることはまずないし、近くの店にもほとんどない。又使用方法も日本と違い先にダイヤルし、相手が出たらお金を入れる、最初からいれてもそのお金は戻っても来ないから電話局へ寄付したことになる。何んとなく日本の癖でこれが以外に多い。私も公衆

電話で用が足りた記憶がない。さてやっとのことで Mr Chacrabarty に連絡がついたが、又4時に電話をしてくれとのことである。

又鈴木さんには通訳のサニーも紹介してもらった。電話をして30分後にサニーは大使館に現われた。日本に3年程いたとのこと、流暢な日本語を話す。彼はシック教であるので、ターバンを巻き、髭を生していた。いわゆる日本人の考えているインド人のイメージである。

大使館を辞し、サニーと一緒にデリーの街を散歩する。4時に Cahcrabberty さんに電話したところ、明日4時に来いとのことである。我々の日本からの登山申請書は知らないとのことである。もう1ヶ月になるのに、まだ書類が廻っていないらしい。私のビザはサニーの友達が旅行社にいるとのこと、その人に相談することにしたが、彼は出張でデリーにおらず、帰ってからビザの方は進めることにする。

翌日、約束の時間に Chacrabarty さんのところに行く。彼は国防省にいるので、国防省のあるサウス・ブロックへ向う。サウス・ブロックはレンガ建てのビルで天井がやけに高い。又国防省という役所柄か、ビルに入るのが、やけにうるさいのには閉口する。アポイントメントを取ってあるといっても、受けでいちいち電話で確かめてから入館カードを発行して、それを見せないと入れさせてくれない。Chacrabarty さんは相当地位が高いのであろう、りっぱな一室を構えていた。少し頭の薄くなったその人は、なかなか人の良さそうな人物で、日本の岳人の名が出て来たのには驚いた。早速、英文の計画書を提出し、2週間後に返事が出るとのことである。トランシーバーの使用について尋ねると、トランシーバーを持っていると許可も取り消されることになるかも知れないとのことである。これは困った。トランシーバーが無くては各キャンプの情報が分からなくなり、行動に大きな障害となる。しかし今は登山許可をもらうことが先決である。それから手を打っても良いと考え国防省を後にした。

このところ決って3時~6時頃にかけて雨が降る。サニーに、この季節にはこのようなことがあるのかと尋ねたら、そんなことはなく偶然だということであった。サニーはスクーターを持っているので、普段はその後に乗り、タクシー代が浮いているが、雨が降りそうだと、乗って行く訳にもいかず、三輪タクシー(現地人はこれもスクーターと呼んでいるが、日本で10年程前に良く見かけたミゼットにそっくりな三輪車の後に2人乗れる様にしたもの。料金は自動車のタクシーの半分以下である。)を使うが、インド人が一緒でないと、料金をふっかけられたり、乗車拒否をされたりで、全く神経が疲れる。又デリーの市内交通は電車がないので、バスかタクシーであるが、このバスはラッシュ時には大変な混み様でドアにまでぶらさがっている有様で

あるし、第一、何処へ行くのかは全然分らない。旅行社のパンフレットにも、バスは薦められないと書いてあった理由が分る、とするとタクシーしかなく、毎日のことだとこのタクシー代は馬鹿にならない。

私のビザは、どうなるものかと一人でイミグレーション・オフィスに行ってみたがやはり、トランジット・ビザは延長出来ないとのことである。(後で分った事だが一週間なら延長が出来る。)一度ネパールに入り、そこで観光ビザを取ることも考えたが、これもサニーの友達の旅行社に勤めるバルジットさんの話だと、一度インドに入っているから、観光ビザは発行してくれないとのことであった。これはインドを一度出たら3ヶ月以上たたないと3ヶ月の観光ビザは発行されない規則になっているという。しかしこれもインドに観光ビザで入国した場合であって、私の様にトランジット・ビザも同じ扱いになるかどうかは不明であった。イミグレーション・オフィスではもう私のことを知っているので聞く訳にもいかず今もって不明のままである。それより21日間は滞在出来るのだから、その間に手を打った方が良いと判断した。登山許可が下りれば、IMFからの証明書でビザは出してもらえと思うが、それまでにビザが切れても大変であるから、万一の為に金で解決出来るかどうか、色々な伝を使って尋ねると、あっさり500ルピー位で出してもらえとの返事があった。しかし、これはイミグレーション・オフィスの事務員に、私が金で解決する気があると取られ、後々に色々な障害となった。これは危険人物ととられた訳ではなく、その事務員が金をもらえなくなるからである。しかしこの事は私の耳に入ってきたのは色々な人を通してであり、憶測や尾ひれが付いている様でもある。とも角、金で解決することは好ましくないの、最後の手段としてとっておくことにした。登山許可が下りれば全ては解決するだろう。全ての事がこれにつながっている。当初の計画では、登山準備も兼ねシムラやマナリにも行くつもりであったが、何だかんだとその日がなくなってしまった。

チャクラバティさんとの約束の日である22日に電話をしてみるとまだ内務省から返事が来ないという。我々の申請書はIMFから内務省にまわり、そこで可否の判断をする様である。するとIMFは単なる窓口ということになる。とも角インドペースには悩まされ通してであるが、どうしようもない。25日に電話してくれという。その日、また電話すると門前払いになるのがおちだと、直接国防省に行き面会を求める。会ってばくれたが、やはり答えは同じであった。我々の事情を説明し、早く許可を下してもらう様に頼んだ。この間に日本大使館の鈴木さんからプッシュしてもらっていた。今週末の29日までに許可が下りなければ8月29日予定の本隊の出発があやしくなる。今週

中に許可を得ようとしたが、相手はインド政府である。考えられる全ての手は打った。これは最早次元の違う世界の出来ごとの様に何んの反応もない、我々の気持とは裏腹にただ日が過ぎていった。

29日は私のビザの切れる日でもあった。イミグレーションに頼み込んだら一週間だけ、つまり8月5日までビザ延長が認められた。28日頃からチャクラパティさんはもう許可が下りているが手元に書類が廻って来ていない故、もう少し待ってくれとのことであった。もうこの言葉を信ずる以外に方法がなかった。8月5日までには間に合うであろう。

そして、8月1日正式に我々にファブランの登山許可の返事があった。第一目標のアイスセールの望みは消えたが、ファブランも未登峰の6172mである。不足はない、しかし登山許可はIMF会長であるサリーンのサインがいるとのことで、我々の手元に届いたのは、8月4日であった。もうこの2週間近くIMFに日参している。ゲートの前の軍人も我々の顔を見ると、微えむようになっていた。すぐに私のビザ延長の書類を頼むと心良く引き受けてくれたが、明日来いという。明日出来なければ私のビザは切れてしまう。そのことを良く頼み、IMFを辞した。

とも角、少々遅れはしたが登山許可は下りた。一週間後位には本隊もインドに到着するであろう。この夜、サニーと2人で祝杯をあげた。そういえばインドで酒を飲むのは初めてである。ひさしぶりに、ぐっすりと眠ることも出来た。

翌日、IMFに行くと私のビザ延長の証明書は出来ていた。インドペースでこの一日は驚異に値いすると感心しながら、イミグレーション・オフィスに向う。書類は受けつけてくれたが、所長の所まで連れていかされ、面接までさせられた。又してもこの書類を本庁に廻すので、ビザ発行は遅れるとのことであったが、その間はインドに滞在しても良いとのことであるのでほっとする。

それから一週間が過ぎていった。東京へ国際電話をするが、まだビザは下りないという。東京ではH A A Jあてに届いた登山許可証を持って行ったが、それではビザは出せないという、やはりインドの正式のチャンネルに乗った書類でないと駄目だという。慌ててチャクラパティに会って話を聞くと、外務省を通して登山許可を出してあるという。こっちは出したと言うし、東京では着いていないという。いったいどうなっているんだ。日本大使館の鈴木さんに援助を頼む。鈴木さんはインド外務省の日本担当係官であるウッパルさんに連絡をとってくれた。彼が言うには、既に電報を打つてあると言う。しかし念の為に、もう一度電報を打ってもらう様に頼んでくれたと言うことであった。早速その旨を日本に伝えたが、又しても、一週間が過ぎても、まだ

着いていないと言う。そんな！ もうこの頃には、成る様に成れといった感じであった。再び鈴木さんを通してウッパルさんと連絡をとってもらったが、彼は又電報を打ってくれると言っていたそうである。3度目の正直で駄目なら、もう打つ手はないと、夢遊病的心理状況であった。しかしやはり3度目の正直なのか、今度は日本から8月24日に本隊出発する旨の電報を受け取る。これで残ったのは私のビザ延長だけとなった。1ヶ月予定が1ヶ月半延びてしまったが、とも角山へ向える見通しはついた。

この間に色々な人々にお世話になった。日本大使館の鈴木さん、日航のニューデリー支店の人々、そしてサニーの多くの友達と、頼る人もない異国の地での親切は、身にしみる。私一人ではここまで持って来れなかったであろうと思うと頭の下がる思いである。だからこそ我々は自力を出しつくし山へ向おう。ヒマラヤへ体ごとぶつかれば、その結論はおのずと導き出されるに違いない。

サニーは人一倍喜んでくれ、私の体を抱きしめそれを表わした。二度目の祝杯をあげて2人でパラム空港へ本隊を迎えに行った。

